

ろくおんの通信


発行日：1994年 5月15日

No. 63号

発行者：盲人情報文化センター録音製作係

リクエスト図書一覧

以下の図書は利用者から製作依頼を受けている図書です。
グループの方で、音声訳が可能な方がありましたら録音製作係までご連絡ください。

依頼されている原本	引き受けて頂いたグループ
1『概説統一原理レベル4』／レベル4編集委員会：＜宗教＞ 2『無功德58号. 59号』／承福寺著：＜宗教＞ 3『俳句会報みまつ8. 9. 10月号』／みまつ俳句会編 4『神道の成立』／高取正男著：＜宗教＞ 5『連如 吉崎布教』／辻川達雄著：＜仏教＞ 6『1928年。御大典の裏側で』／田中伸尚著：＜歴史＞ 7『ノーマライゼーション研究』／＜社会福祉＞ 8『鍼灸学』＜東洋医学＞ 9『鍼灸医学における実践から理論へパート2』 10『論巧』＜東洋医学＞	 えくてもあ グループ藍野

ご案内

第1回
東洋医学音声訳研究会
 日時：5月20日(金)
 15:00~16:30
 講師：片山一夫氏(国立神戸視障センター)
 場所：盲人情報文化センター 6階
 参加費：100円(資料代等含む)
 ※5月より毎月第3金曜日実施

第1回
音声訳研修の会
 日時：5月26日(木)
 13:30~15:30
 場所：盲人情報文化センター 6階
 参加費：無料。どなたも参加出来ます。
 内容：チームに分かれて処理の研究を行います。曜日が変わりました。

「音声訳」を考える(第14回)



録音の順序と各ポイント

録音製作係 清水賢造

前々回、盲人情報文化センターの「校正マニュアル」が出来たことを紹介しましたが、「校正マニュアル」を求められたグループから、いくつかの質問も寄せられていますので、このコーナーで「録音順序」とそれぞれのポイントを数回に分けて説明していきます。

盲人情報文化センターの「録音の順序」は日本盲人社会福祉施設協議会点字図書館部会（以下、「日盲社協」と略します。）で決められた「録音図書製作規準」（以下、「規準」と略します。）に則っていますが、一部、変えている部分もありますので、その部分について紹介をしたり、また、混乱の見られる「梓アナ」の入れ方や「録音図書凡例」の入れ方、「目次」の読み方などについてふれていく予定です。

1. 盲人情報文化センターの「録音の順序」について

①. (シリーズ名)、著者名・書名(副書名)	⑪. まえがき、序文
②. テープ全巻数と第1巻A面の表示	⑫. A面の終わり(各巻)
③. 製作館名	⑬. B面のはじめ(各巻)
④. 製作年	⑭. B面の終わり(各巻)
⑤. 音声訳者・校正者・編集者	⑮. 2巻以降のA・B面のはじめ
⑥. 原本奥付	⑯. あとがき
⑦. 著者略歴(紹介)・訳者略歴(紹介)	⑰. 解説・参考資料・年表 索引・刊行のことばなど
⑧. 原本凡例	⑱. 著者の既刊作品の掲載 *入れると決めた場合のみ録音する
⑨. 録音図書凡例	⑲. テープ最終巻の末尾
⑩. 目次	

原本とは順序が異なる場合もあるが、以上の順序で録音する。

以上が、盲人情報文化センターの録音の順序です。全体の順序は「日盲社協」の録音図書製作規準に沿っていますが、以下の点が違っています。

- ①シリーズ名を初めに言う。「規準」では、書名、副書名の後にシリーズ名を入れる。盲人情報文化センターでは、テープ全〇巻というコメントを最初に入れる為、シリーズ名を副書名の後に入ると、「・・・〇〇（シリーズ名）〇（数字）、テープ全〇巻の第1巻」と、数字がいろいろ続き、テープ全〇巻の巻数がシリーズの「全巻数」なのか、その本の「全巻」数なのか混乱も予想されるため最初に入れるようにしたものです。全巻数を最初にコメントするのは、テープを聞いた時に、全巻数がわかる方が利用者に便利な為です。
- ②テープ全〇巻のコメントを最初と最終巻の末尾で入れる。
- ③「規準」では製作年は「〇月」まで入れるが、「製作年」だけにし、最終巻末尾で製作年月日まで入れる。図書館のカードに記録する部分は「製作年」までなので、「月日」は最終巻末尾に入れるようにした。
- ④各巻B面の粋アナで「書名」を入れる。「規準」では、「書名」は省略している。

以上が、「規準」と違っているところです。各館によっても少しづつ違っているところがありますが、基本的にはこの順序をほぼ守っているといえるでしょう。「規準」を作って全国的に録音図書の録音順序を決めているのは、テープ図書は複製が容易なことから各館で他館のテープ図書を複製して利用する場合も多く、カードを作成する時にも順序が統一されていると便利です。原本奥付がどこに録音されているか分からないとカードを作成する時不便です。また、最初に原本奥付を読むことでいつごろ発行されたものかを利用者が知ることができます。テープ図書の製作年と原本の製作年はかなり違って普通だからです。利用者の方も、テープ図書の録音順序が決まっている方が利用しやすいということがいえるでしょう。

2. (シリーズ名)・著者名・書名(副書名)を読む時の注意点



- ①著、作、編、書名などは図書館で製作しているカードにあわせる。

図書館で製作するカードは、図書館で発行する目録の基になるものです。目録で紹介する内容とテープ図書の粋アナが一緒でないと混乱してしまいます。音声訳者が勝手に、「副書名」を「書名」にして読むと、図書館が目録で紹介する「題名」と違うことになります。また、点字表示とテープの粋アナが違うといったことになってしまいます。シリーズ的なものや全集などの時は、書名、副書名の扱いは特に注意しないと混乱してしまいます。

「〇〇〇全集 第1巻 △△〇〇」という時など、「△△〇〇」を書名にしたいケースがありますが、普通これは副書名で、「〇〇〇全集 第1巻」が書名になります。原本に大きく書いてあるから「書名」といった判断をすると間違いになりますから注意しましょう。

練習問題

例文1

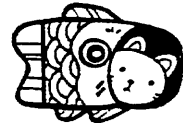
表意文字になると、数が多いだけに、どのように定められていったか興味がある。自然淘汰で決っていったとすれば、その間には非常な労力が費されたに違いない。概念が形になっていく経過には、表音文字とは異なる知的な楽しさがあったと思われる。モノや行為ばかりでなく、仁・義・礼のような抽象概念まで作られていくまでには、長い時間がかかっただろう。寿司屋で見かける魚への文字表を思い浮かべれば、作字における創造のよろこびは想像できる。表意文字である漢字にはもともと同音異義語が多いのだが、音痴の日本にきてからは、類音が同音になって、同音異義語はますます増えてしまった。昔は若干発音が違って、わたしの子供のころは、漢字の音も、チョウ、チャウ、テウ、テフと区別していたが、今はチョウ一つになっている。例えば、構成・厚生・公正・校正・更正・攻勢・後生・後世・恒星・康生・甲西と、今や「コウセイ」で、同音異義語がこれだけある。

例文2

「家政学」だった栄養学

”人間にとっての最も望ましい食事”は、”人間にとってのオプティマルな食事”(optimal human diet)と、原文どおり英語でいったほうが正確な概念をつかめるかもしれない。この文章からも米国では、栄養学が一九七〇年代のはじめには、はっきり「人間にとってのオプティマルな食事を追求する科学」として認識されていたことが知れる。どういう食事が人間にとってオプティマルな食事なのか?パークレーのクラスを埋めた学生は、それを学ぶために大学に入ってきた青年たちだったのである。彼らは米国人の食事が誤っていることを知っていた。誤りは生き方そのものからきていることも感じとっていたが、では、どういう食事が人間にとってオプティマルな食事なのかと問うたときに、まだ完全に答えられる人はいないことも知っていた。だからこそ、それを追求する科学として栄養学があるのだと思っていた。”ペントハウス”の熱気はそこから生まれていたのである。彼らは高校でも栄養学を習ってきていた。だがそれは、ラッペンタールがいうように実際の内容は家政学で、三大栄養素というような強調した表現がよく使われ、食品を四つのグループに分類して、それを正しく食べ合わせれば健康が維持できるといったようなことが保証されていた。すべての栄養上の問題はそれで解決がついていたのだ。習いごとと同じように、すでに定まったものがあり、正しい食べ合わせもふくめた、ことごとくの事柄がなんの問題もないものとして断定されていた。そうした家政学に対して、学生たちの知的興味が湧くことはありえなかったに違いない。だから、ラッペンタールがカリフォルニア大学パークレー校に入学したとき、そこにも食品を四つのグループ(肉・卵、ミルク、野菜・果物、穀類)に分けた農務省発行のチャートが、色あせてくたびれていたとはいえ貼ってある

のを見て、刺し込むような疑問を覚えたのは当然である。



例文3

「情断」

情報がいたるところ、ふんだんに流れているといわれながら、重要な情報はなかなか手に入らない。どこかで流通が操作されているのではないかという疑念も、決して的はずれではない。政策や国際緊張から、情報そのものが入ってこない事態は、十分に考えられる。OPECが結束して、石油の価格を操作した際、石油禁輸に「油断」という言葉を用いて、不安な事態を象徴的に示唆したことがあった。これにならって、「情断」を創出したのは、特許庁から出向していた科学技術庁のお役人である。日本のハイテクノロジーの台頭に神経を尖らせていたアメリカに、情報の選択禁輸のウワサが立った。安全保障の観点から、技術の内容によって、情報の輸出を制御しようという動きであった。OECD（経済開発機構）の外相会議で、情報の自由な国際流通を維持しようと決議したが、流通制御の発想は今後も絶えないだろう。この制御が強まると、かえって諜報行為が増える。そして、諜報も形を変えてくるだろう。俳人芭蕉が実は隠密で、奥の細道紀行で仙台で仙台藩を探った、というような異説が真実味を帯びる事態は、決して望ましいことではない。

例文4

日本では大黒さまというと、恵比寿と並ぶ福の神。七福神の構成メンバーとして、とりわけ商家の人々に敬愛されている神さまだが、「大黒」の二文字が示す通り、もともとこの神は、暗黒世界を支配する形相おそろしい魔人なのだ。いつのまにかそれが、大自在天の部属に組み入れられ、衆生に福德をさずける豊穡の神に大逆転してのけたのは、なぜか？これは「大黒」と「大国」の音が同じところから、神話に登場する大国主命とごちゃまぜになった結果である。

例文5

和風の床の間には、真、行、草、がある。真は筆法でいえば楷書に当たる本床で、書院と違柵を完備する。行はやや略式で違柵と書院はなくていい。蹴込床、袋床などがある。草はさらに略したもので茶室の床がその代表で、踏込床、織部床などがある。

どこの家にも大雅（池）や竹田（田能村）の掛軸があるわけではない。そこがほの暗く陰翳に富んでいれば、限りなく本物に近いにせ物でもいいのである。

ポイント 例題1は同音異義語／ 例題2はカッコ、記号の処理／ 例題3は造語
例題4は「音と訓」／ 例題5はカッコ中の処理

正誤表から・・・その37

語句	誤読	正しい読み	語句	誤読	正しい読み
嫡出子	チキシュツ	チャクシュツ	和やか	オダやか	ナゴやか
対等	ダイトウ	タイトウ	非力	ヒリョク	ヒリキ
審判員	ハンソウイン	ソウバンイン	則って	ノって	ノットって
難路	ナンジ	ナンロ	草鞋	ゾウリ	ワラジ

二通りの読み方がある各々意味が異なるもの・・・その24

下足	ゲソク 集合場などで脱いだ履物 カゲソク 相場が下落に向かうこと。	三子	ミゴ 三人一緒に生まれた児、三歳/幼児 サンソク 道家ヲ代表スル(老子、莊子、列子/総称)
上品	ジョウヒン 品の良いこと。 ジョウホソ (仏)極楽浄土ヲ上中下ニ三分 ソト上	小文	コガミ 書状の形式の一。 ショウブン 短文章/自分/書付文ヲ遜ツテイハル語
盛る	カカル 勢いが盛んになる。流行する。 モル 食物ヲ器入ニ入レテ一杯ニスル。 高く積みあげる。	直道	ジキドウ (仏)迂回シテイハルマツグニ涅槃ニ到達 スル道。 チョクドウ マツグヲ直道、人ヲ行ハセキ正シク道

質問コーナー

Q 音声訳の処理でいつも悩むのですがどこで勉強をしたらよいのでしょうか。

A 日本語の文章をどのように音声訳すればよいか迷うことは多いでしょう。自分の経験だけでは、限界があります。よくわかるように音声に変換するには様々な技術が必要です。この音声訳の研究をしているのが、2ヶ月に1回、盲人情報文化センターの9階ホールで実施している、「音声訳研修の会」です。3チームくらいに分かれてさまざまな文章の音声訳の研究をしています。対象は盲人情報文化センターの音声訳ボランティアおよび『ろくおん通信』を利用されているグループの方です。お気軽にご参加ください。

きれいに録音する為に (第4回)

声をクリアーに録音する

前回は録音機のセットについて書きました。リモコンで操作すれば、例えば窓越しでも操作することができます。カセットデッキをマイクから遠くに離し(もちろん見えるところに置いて)操作すれば、スタートの時に出る「雑音」が録音されずほとんど気にならなくなりますので、ぜひリモコンが付いている機種は使われることをお勧めします。

さて、今回から「きれいに録音する技術」について考えていきます。

「きれいに録音する為の技術」とは「音声訳者の声のみを明瞭に録音する技術」ということができます。しかし、それをどのようにするかが問題です。

まず録音技術以前の問題として、

1. 明瞭な発声を行うこと
2. 複式呼吸をマスターすること

は大切なことです。何と読んでいるのかわからないようでは困ります。口の動きをなめらかにし言葉がよくわかるように読むことが前提です。どんなに高価な録音機でも機械の方で良い声(?)に直してはくれません。かえってその人の欠点をもきれいに録音してくれるでしょう。

「声のみを明瞭に録音する」ということは、“音声以外の余分な音をできるだけ録音しないようにする”ということになります。つまりこの「余分な音」=「雑音」をいかに排除するかが問題となってきます。この「雑音」は以下の3種類にわけられます。

1. 音声訳者自身が発生させている音
2. 録音環境による音
3. 録音機による雑音

です。音声訳者自身が発生させているものは気をつければすぐに防げるものと、工夫をしなくてはならないものがあります。気をつければすぐに直せるものには、

1. 椅子などを動かして出している音
2. マイクやコード類に知らずに触れて出している音
3. お腹の鳴る音
4. 声が波うつ症状

です。

1. の場合は「ギーギー」と良く鳴る椅子は避けるべきでしょう。録音中には体を動かさないように注意しなければなりません。体を動かすと4. で述べますが、雑音以外にも別の問題が起



こってきます。

2. の場合ですが、これも案外気がつかずに雑音となって録音されているようです。特に机の上に柔らかいものを敷かず、また、マイクスタンドの下にも何も敷いていないと、机の振動がそのままマイクスタンドを通して録音されてしまいます。マイクスタンドの下に柔らかいモノを敷くことが大切です。

3. の場合は何か食べれば解決でしょう。特にスタジオなどの静かな部屋では良く聞こえますので録音されてしまうことがあります。気をつけましょう。

4. の声が波打つという現象は指摘を受けないと自分では気がつかず、校正者に指摘されることがあります。この現象は原因としては3つ考えられます。

1つ目は、音声訳者が原本を読んでいく内に、顔が上下左右に動く為に起こる現象です。顔がマイクの中央になった時には声が大きくなり離れるに従って小さくなり、またマイク中央に向かうときに大きくなる為、音声は波を打つように大きくなったり小さくなったりする現象です。家庭録音の場合、「マイクの距離を20cm前後に」と言っていることから、このような現象がよく生じます。これは指向性のマイクは近づけば近づくほど声を拾う範囲が小さくなり、顔が少し動くことでマイクが声を拾わなくなり急激に音量が下がる為です。

2つ目は、音声訳者自身が前後に動く為に起こる現象です。マイクと口との距離が離れたり近づいたりすると音量は変化します。音量は、距離の自乗に反比例しますので、マイクと口元までの距離が2倍になると、音量は1/4になり、逆に1/2になると音量は4倍になります。音声訳者は録音する時はマイクと口元までの距離が一定になるように読まなくてはなりません。体が動くことは厳禁です。

3つ目は、カセットテープかカセットデッキの方が原因で起こる現象です。カセットテープが原因の場合はテープそのものがしわがあったりしていると不安定になります。また、機械が原因の場合、ピンチローラーが不良になってテープの走行が不安定になることによっても起こります。ピンチローラーをときどきアルコールで拭くことも必要です。

以上は音声訳者自身が気をつければすぐにでも減らすことが出来る現象ですが、次回は音声訳者が発声させる雑音で少し工夫しなくてはならない雑音について考えます。

☆ お礼 ☆

前号で、『ろくおん通信』の発行に際して、郵送費等の一部負担のお願いを致しましたところ、多くのグループからお申し込みを頂きました。中にはカンパも含めてのお申し込みもあり感謝しております。今後とも、紙面の充実をめざしていきますのでよろしくお願い致します。

録音製作係



つづく